

胸部悪性腫瘍の予後を規定する分子マーカーの探索

1. 研究の意義：現在当科では、胸部悪性腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、胸腺上皮性腫瘍）に対して手術を含めた治療が行われています。胸部悪性腫瘍の予後を予測することは、適切な治療方針の決定に役立ちます。そのため様々な癌腫で病期が決められ、予後予測に用いられています。しかし、病期だけでは予後の予測は不十分であるのが現状です。例えば原発性肺癌で病理病期がI期（一番初期の段階）であれば、5年生存率は80-90%と言えますが、逆にいえば10-20%の患者さんは亡くなっているのが現状です。そこで同じ病期の癌でもどの患者さんが再発するのかをより正確に予測する必要があります。このような状況において、予後予測に有用なバイオマーカー（予測因子）を探索する必要があります。

2. 研究の目的：胸部悪性腫瘍の予後及び外科治療の成績に関する分子マーカーを探索しその臨床的有用性を検討する。

3. 研究の対象・方法：当科にて1996年1月から2021年3月に胸部悪性腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、胸腺上皮性腫瘍など）に対し手術を受けた患者様を対象とします。切除検体を用いて様々な分子の免疫染色を行い、病歴、カルテ、画像所見や、臨床検査データを参照し、術後の治療成績に関わる因子を明らかにします。また、「呼吸器外科及び呼吸器内科の手術及び検査の生体試料の保存及び研究に関する包括同意」に同意いただいた患者さんで、血清（血液の成分）の検体が残っている患者さんに関しては、血清中の様々な分子の測定を行います。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で利用する試料は、切除検体（パラフィン包埋ブロック）を用います。また、2021年3月までに「尿中微量蛋白断片による肺腺癌の診断精度の検証」「尿中微量蛋白断片による肺扁平上皮癌の診断精度の検証」「呼吸器外科及び呼吸器内科の手術及び検査の生体試料の保存及び研究に関する包括同意」に同意いただいた患者さんで、血清（血液の成分）の検体が余剰分が残っている患者さんに関しては、血清を用います。本研究で利用する情報はカルテに記載されている臨床情報です（性別、年齢、悪性腫瘍の種類、原発巣の治療状態、組織型、術前併存症、術前呼吸機能、悪性腫瘍に対する治療内容と治療日、追加治療の有無、手術前の化学療法の有無、手術日、病期、腫瘍径、手術術式、切除根治性、補助療法の有無、最終確認日、転帰、再発部位、再発後治療など）。

5. 外部への試料・情報の提供

外部に資料・情報を提供することはありません。

6. 研究の対象に該当する患者さんへ： プライバシーの確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を公表する際には、症例のグループごとでの解析結果の発表となり、患者さん個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。ただし、すでに発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承ください。

7. 研究組織

本研究は大阪大学呼吸器外科にて行われます。

研究責任者：

565-0871

大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 呼吸器外科学

新谷 康

電話:06-6879-3152 Fax;06-6879-3164